

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 大牟田市立中友小学校

種別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫教育  
 中学校     中高一貫教育     高等学校  
 教員養成     技術/職業教育  
 特別支援学校     その他（                                      ）

所在地 〒836-0025  
大牟田市中友町1-20

E-mail nakatomo-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website \_\_\_\_\_

児童生徒数 男子 68名    女子 72名    合計 140名  
 児童・生徒の年齢 7歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ 福祉教育 ）

### 3. 活動内容

#### (1) 1年間の主な活動内容

本校では、一人暮らしの高齢者が多い校区の特色を踏まえ、5年生児童が校区民生委員と一緒に高齢者宅を訪問したり、地域包括支援センターが実施する徘徊SOSネットワーク模擬訓練に参加したりしている。また、校区内に和菓子屋さんが多いという点も地域の特色であることから、饅頭の歴史を調べたり、実際に作ったりする活動を通して、地域への関心を高め、他者との関係性・社会との関係性を認識し、「つながり」や「かかわり」を尊重して、地域に対して自分たちにできることを考えたり、実践したりする児童を育て、共生社会の構築を目指す取組を推進している。

#### 生活・総合的な学習の時間を中心にした取組【福祉教育】【地域学習】

- ・ 1年生（生活科）・・・「友だちや身近な人たちとなかよくなるよう」
- ・ 2年生（生活科）・・・「レッツゴー町たんけん」
- ・ 3年生（総合）・・・「心の目を育てよう」「保育園の子どもとふれ合おう」
- ・ 4年生（総合）・・・「大牟田・中友PR！キッズまんじゅうをつくろう」  
「二分の一人成人式をしよう」
- ・ 5年生（総合）・・・「みんながつながる中友校区をめざして  
～子ども民生委員活動を通して～」
- ・ 6年生（総合）・・・「高齢者福祉について考えよう」  
「感謝の気持ちを伝えよう」

#### 【実践事例】

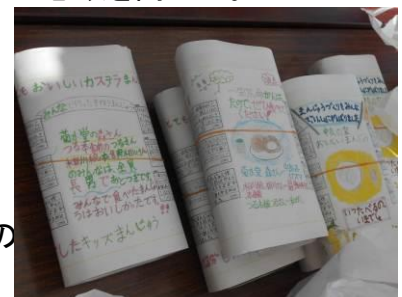
##### I 4年生「大牟田・中友PR！キッズまんじゅうをつくろう」（25時間）

#### (1) 学習のねらい

- 大牟田の饅頭について関心を持ち、課題を見出すことができる。（問題設定の能力）
- 大牟田にある世界遺産（石炭関連施設）について学習し、石炭と共に発展してきた大牟田の町の歴史や食文化（饅頭）を知り、地域の良さを伝える方法を話し合うことができる。（課題解決の能力）
- 「キッズまんじゅう」作りを通して、地域の良さを発信し、地域への関心を高めるとともに、自分たちにできることを考え、実践していくことができる。（自己の生き方）

#### (2) 実践の展開

- ①大牟田の饅頭について自分の課題を持ち、その歴史を調べる中で、カステラ饅頭が炭鉱で働く人々にとって手軽で疲れを癒やす食べ物であったことを学習した。
- ②大牟田市の「世界遺産」である炭鉱関連施設についての地域学習を行い、大牟田の宝について調べた。
  - ・ 大牟田の宝を伝えよう（地域学習「世界遺産」）
  - ・ 和菓子屋さん見学、カステラ饅頭作りを2回体験し、饅頭に込められた和菓子屋さんの思いや願いを知り、キッズまんじゅう作りへの意欲を高めた。
- ③10月29日（土）PTA バザーの際に「キッズまんじゅう」コーナーを設け、手作り焼きたてカステラ饅頭の販売を行った。大牟田の宝についてまとめた紙を包装紙にして発信するようにした。
- ④12月の銀座商店街での十日市には、学習したことを模造紙にまとめ掲示したり、1月のユネスコ週間・2月の学習発表会では、寸劇を交えながら発表したりして、



多くの人々に「キッズ饅頭」の学習を発信することができた。

## Ⅱ 5年生「みんながつながる中友校区を目指して～子ども民生委員活動」(35時間)

### (1) 学習のねらい

○地域の民生委員さんの仕事や役割について話を聞いたり、「子ども民生委員活動」を経験したりして、よりよい関わりを深めていくことの大切さに気づき、課題を見つけることができる。  
(課題設定の能力)

○疑似体験をしたり、資料を活用したりして高齢者の体や暮らしについて調べることができる。  
(課題解決の能力)

○学んだことを生かし、日常生活の中で、お互いが思いやり、いたわり合うことのすばらしさに気づき、高齢者や地域の方々とはふれ合おうとすることができる。

(自己の生き方)

### (2) 実践の展開

①地域の民生委員さんの仕事や役割について話を聞き、「子ども民生委員」の委嘱状をいただき、お年寄りの方や地域の方のお宅を訪問して名刺を配った。

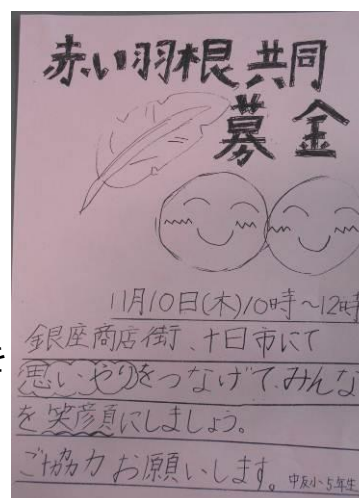
②絵本教室で、認知症について学習を行い、高齢者の体や暮らしについて理解を深め、9月に行われた認知症 SOS ネットワーク模擬訓練に参加し、認知症の方への声かけや接し方を体験した。

また、運動会の招待状は思いのこもったアイデアいっぱいのデザインを考えたり、敬老会では、おもてなしの心あふれるサポートをしたりして、地域の高齢者の方とはふれ合うことができた。

③11月は、民生委員さんと一緒に「赤い羽根共同募金運動」も行ったが、事前に手作りのチラシを配るなどして、多くの方に来ていただけるよう発信を積極的に行い、地域の福祉活動についても学んだ。

④1月の子どもユネスコサミットでは、「子ども民生委員活動」について発表し、大牟田市民の多くの方にその活動を発信することができた。

⑤2月には、大牟田市地域福祉大会において、表彰を受けた。



### ○成果

- ・それぞれの学年で、昨年度までの取組を継続したり、新たに学習内容を変えたりして、教職員の共通理解のもと全学年でESDを実践することができた。その中で地域の方との連携(校区民生委員・和菓子屋さんなど)が強化された。
- ・認知症サポーター養成講座には、保護者の方にも参加してもらい、模擬訓練当日に、子ども達と共に校区内を回って、声かけ訓練をしてもらうなど、保護者への啓発ができた。
- ・今年度は大牟田の宝を伝えるために4年生児童が「中友キッズまんじゅう」として、児童手作りの焼きたてカステラ饅頭を、PTAのバザーの時に販売するという発信を行った。保護者の方を始め、地域の方もたくさん買っていただき、子ども達の達成感につながった。
- ・6年生の「感謝の気持ちを伝えよう」では、4年生での「キッズまんじゅう」の学習を生かし、地域の方・保護者・学校職員へ、手作りカステラ饅頭を届けることができた。自分たちの思いをデザインした焼き印も作るなど、学校の特色を生かした学習を展

開することができた。

・地域の方との関わりが増え、日常的な挨拶や地域の行事への参加が増えた。

○課題

- ・地域・他校への発信の仕方の工夫。
- ・身に付ける力を明確にした学習の進め方と評価

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）